

平成 29 年 5 月 31 日	<b>病害虫発生予報</b> <b>6 月号</b>	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

平成 29 年度茨城県農薬危害防止運動が始まります (6/15～9/14)  
～薬剤散布時には周辺作物等へ飛散しないよう十分注意しましょう～

＜ 目 次 ＞

<b>I. 今月の予報</b>	
<b>【注意すべき病害虫】</b>	
水稲：縮葉枯病（ヒメトビウンカ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
水稲：ニカメイガ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ナシ：黒星病・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ナシ：ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）・・・・・・・・・・	3
【防除所レポート】：ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・	3
果樹共通：チャバネアオカメムシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
【防除所レポート】：サクラにおけるチャバネアオカメムシの発生状況・・	4
夏ネギ：ネギハモグリバエ，ネギアザミウマ・・・・・・・・・・	5
<b>【その他の病害虫】</b>	
水稲，ブドウ，半促成ピーマン，夏ネギ・・・・・・・・・・	6

最新の農薬登録内容は、(独) 農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」([http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)) で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。  
茨城県病害虫防除所      Tel : 0299-45-8200  
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。  
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>  
フェロモントラップデータ随時更新中

# I. 今月の予報

## 【注意すべき病害虫】

### 水 稲

#### 1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並～やや早い	多い	県西地域, 県南の一部地域

[予報の根拠]

- ① 有効積算温度から計算した水田におけるヒメトビウンカ第二世代幼虫の孵化最盛期は、平年並～やや早いと予測される。
- ② 3月に採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、県西地域の10地点中9地点で、県南地域の3地点中3地点で10%以上の高い値である。

(平成29年3月30日発表 病害虫発生予察注意報第2号参照)

[防除上注意すべき事項]

- ① 昨年、本病の発生が認められた地域で、本年、ウンカ類に登録のある薬剤で育苗箱施用を行わなかった水田では、6月第4～5半旬（16～25日頃）にヒメトビウンカの本田防除を行う。
- ② 5月下旬に採集したヒメトビウンカ第一世代幼虫におけるイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率について、6月上旬に調査し、今後、病害虫防除所ホームページで情報を掲載するので参考にす

る。

### 水稲いもち病の防除について

[現在の状況]

5月下旬現在、置苗での本病の発生は認められない。

[発生好適条件]

気温20～25℃で、弱い雨や霧などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のとき。一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して埋める等適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

※防除所ホームページで6月よりBLASTAM（アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム）による葉いもちの感染好適日の出現状況を掲載する予定ですので、随時ご参照ください。

(水稲 続き)

## 2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① フェロモントラップへの誘殺時期は、龍ヶ崎市で平年よりやや早く、県予察圃（水戸市）、筑西市で平年並である。
- ② 5月第5半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は、龍ヶ崎市で平年より多く、筑西市で平年よりやや多く、県予察圃（水戸市）で平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が目立つ地域では、6月上旬に第一世代幼虫を対象とした薬剤防除を実施する。

## ナ シ

### 1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、発病果率（本年値0.3%、平年値0.3%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 効果的に防除するためには、二次伝染源の除去が重要であり、発病した葉および果実は見つけ次第除去し、園外に持ち出して土中深く埋める等適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

## 2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，第一世代成虫の発生時期は，越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から，平年並と予測される。
- ② 5月下旬現在，フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は，地区予察圃（笠間市，かすみがうら市，石岡市）および土浦市で平年並，地区予察圃（小美玉市）で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後，第二世代幼虫が発生するため，平成29年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に適期防除に努める。防除適期については，下記の防除所レポートを参照する。
- ② 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，葉液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

### 防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は，**第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後**である。
- ② 各地点の第一世代成虫の誘殺最盛期は，越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市，土浦市，筑西市（旧下館市）については，今後，病害虫防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測防除適期 <sup>1)</sup>		
笠間市（旧友部町）	6月26日	～	6月29日
笠間市（旧岩間町）	6月26日	～	6月28日
小美玉市	6月27日	～	6月29日
石岡市	6月18日	～	6月21日
かすみがうら市	6月19日	～	6月22日
土浦市	6月19日	～	6月22日
筑西市（旧下館市）	6月19日	～	6月22日
筑西市（旧関城町）	6月20日	～	6月23日

1) 予測した第一世代成虫の誘殺ピークの7～9日後とした（5月30日現在）。

## 果樹共通

### 1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第5半旬現在、果樹園に設置した予察灯への誘殺数は、かすみがうら市で平年よりやや少ない。
- ② 5月下旬現在、サクラ果実における吸汁果率は平年より低い(本年値 18.8%、平年値 43.7%)。(下記の防除所レポート参照)
- ③ 本年2月上旬の越冬量調査における成虫の越冬数は平年よりやや少なく(本年値 0.2頭、平年値 2.3頭)、越冬地点率は平年並～やや低い(本年値 19%、平年値 41%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、果樹園へも飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 多目的防災網(目合い6mmまたは9mmクロス以下)はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。
- ③ 5月下旬現在、一部圃場のナシ果実において、種は特定できないがカメムシ類によるとみられる吸汁被害を認めたので注意する。

#### 防除所レポート [サクラにおけるチャバネアオカメムシの発生状況]

- ① サクラ樹上での生息数は、平年より少ない(図)。
- ② 吸汁されたサクラ果実の割合は、5月下旬で18.8%と平年より低い。
- ③ チャバネアオカメムシは既に他の植物に移動しており、今後、餌を求めて果樹園へ飛来する可能性があるので注意する。

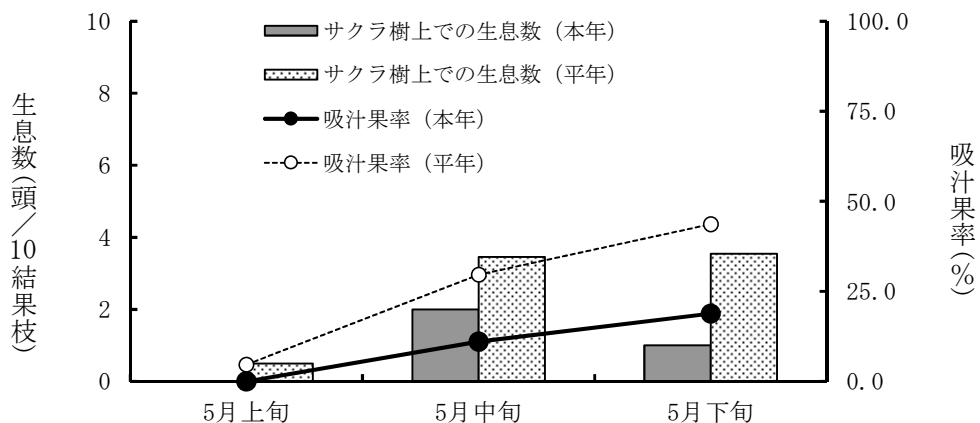


図 サクラにおけるチャバネアオカメムシの生息数と吸汁果率

## 夏ネギ

### 1. ネギハモグリバエ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、被害度\*は平年よりやや高い～高い（本年値 8.8，平年値 2.8）。  
※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。
- ② 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので，発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

### 2. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，被害度\*（本年値 21.8，平年値 25.8），発生地点率（本年値 100%，平年値 98%）ともに平年並である。  
※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。
- ② 気象予報によると，向こう1か月の気温は平年より高く，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので，発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 雑草にも寄生するため，圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ④ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRACコードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネミズゾウムシ	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	イネドロオイムシ	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。曇雨天が続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の発生が多く, 食害が目立つ場合は防除を行う。
ブドウ	灰色かび病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
	べと病		
半促成ピーマン	斑点病	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	うどんこ病	発生量: やや少ない	5月下旬現在, 平年よりやや少ない発生である。
	黄化えそ病	発生量: -	5月下旬現在, 促成作型で発生を確認しているので, 発病に注意する。媒介虫であるアザミウマ類の防除を徹底する。また, 発病株はただちに抜き取り, 適切に処分する。
	アザミウマ類	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
夏ネギ	さび病	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	べと病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。

施設野菜の栽培終了後の管理について

促成ピーマン, 促成トマトおよび促成キュウリにおいて, 微小害虫 (アザミウマ類, コナジラミ類等) が媒介するウイルス病 (黄化えそ病, 黄化葉巻病, 退緑黄化病) の発生を一部圃場で認めました。

微小害虫のハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため, 栽培終了後の野菜施設では, 株を抜き取り誘引したまま 2 週間程度ハウスを密閉する蒸し込みを行います。蒸し込み終了後は, 作物残渣をハウス外へ持ち出して適切に処分してください。

## 作物分類表の一部改正（3/31 付）について

農薬登録における適用作物名は、「『農薬の登録申請に係る試験成績について』の運用について」の別表 1-1 及び別表 1-2 に掲載されています。

平成 29 年 3 月 31 日にこの運用が改正され、別表 1-1 が以下の通り変更されました。  
(別表 1-2 については、平成 29 年 2 月 24 日の改正以降変更はありません)

※2 月 24 日の改正については平成 29 年 3 月 24 日発表の病害虫発生予報 4 月号参照

### 【改正の概要】

- ・ 果樹類に含まれる適用作物が別表 1-1 から削除され、新設された別表 1-1-①に掲載されました。
- ・ 別表 1-1-①には新たな作物群（仁果類・核果類等）が導入され、分類が一部変更されました（下表参照）。

別表 1-1 は別表 1-1-②と名称を変え、果樹類に含まれない適用作物が掲載されました（平成 29 年 2 月 24 日の改正以降果樹類に含まれない適用作物の掲載内容に変更はありません）。

### 【参照先】

- ・ 改正内容の新旧対照表及び改正後の別表 1-1-①, 1-1-②, 1-2 の全体版  
(独) 農林水産消費安全技術センター (FAMIC) のホームページ  
<http://www.acis.famic.go.jp/shinsei/sakumotuhyou.htm>
- ・ 作物群について  
農林水産省のホームページ  
[http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_sasshin/group/top.html](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_sasshin/group/top.html)

表 「別表 1-1-①」中の新たな作物群とそれらに含まれる作物名等（抜粋）

大作物群	中作物群	小作物群	作物名	作物名に含まれる別名, 地方名, 品種名等の例	備考		
果樹類	仁果類	—	かりん		果実を収穫するもの		
			なし	日本なし, 西洋なし, 中国なし			
			びわ				
			マルメロ				
			りんご				
	核果類	もも類	—	もも		果実を収穫するもの	
				ネクタリン			
		小粒核果類	—	あんず	アブリコット		
				うめ			
				すもも	プラム, プルーン		
	—	—	おうとう	さくらんぼ			
	ベリー類等の小粒果実類	—	—	ぶどう	小粒種ぶどう(デラウェア, …), 大粒種ぶどう(巨峰系4倍体品種, …)	果実を収穫するもの	
				ベリー類	アロニア		チョコベリー
				ベリー類	シーベリー		サジー, サージ, スナヂギ
ベリー類				…	…		

『農薬の登録申請に係る試験成績について』(平成 12 年 11 月 24 日付け 12 農産第 8147 号農林水産省農産園芸局長通知)の運用について(平成 13 年 10 月 10 日付け 13 生産第 3986 号農林水産省生産局生産資材課長通知)の別表 1-1-①(平成 29 年 3 月 31 日現在)より作成した。



## II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月27日から6月26日)

気象庁(5月25日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 5月27日(土曜日)から6月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率80%

<2週目の予報> 6月3日(土曜日)から6月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率50%

<3週目から4週目の予報> 6月10日(土曜日)から6月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類\* (FRACコード、IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成29年4月27日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。